

II. タルムードの話

1. 窓ガラスをのぞく人、鏡をのぞく人

つめ かげ ふ ふう ひ みち ある にん こ みちばた すわ
冷たい風が吹くある冬の日、道を歩いていた1人の子どもは、道端に座っているおじいさんに目を留めました。そのおじいさんは、寒い季節なのに薄くて古い服しか着ていません。

そこに、金持ちそうなおばあさんが、近づいてきました。

その子は、"このおばあさんが、あのおじいさんを助けてくれるといいな" と、思いました。

しかし、そのおばあさんは、おじいさんの横を通り過ぎて行ってしまいました。

その子は、がっかりしました。

しばらくして、別の貧しそうなおばあさんが近づいてきました。

その子は、"このおばあさんは、あのおじいさんを助けることができるかな?" と、思いました。

すると、そのおばあさんは、自分が持っていた服を、おじいさんに着せてあげました。

その子は、"おじいさんが、少しでも暖かくなったので、良かった。" と、思いました。

その子は、家に帰ってから、お母さんに今日見たことを話しました。

「お母さん。今日ね、道端に、薄くて古い服1枚を着て、寒そうにしているおじいさんがいました。

そこに、金持ちそうなおばあさんが通ったのだけれど、そのおじいさんの横を通り過ぎ、助けてくれませんでした。

しばらくして、別の貧しそうなおばあさんが近づいてきて、おじいちゃんに服をあげて助けてくれました。

ぼくは、なぜお金持ちそうな人が助けないで、貧しそうなおばあさんが助けたのだろう? と不思議に思ったよ。」

お母さんは微笑みながら、その子を窓ガラスの近くに連れて行きました。

「窓ガラスから、何が見える?」

「風に吹かれて、木の枝が揺れているのが見えるよ。」

「他にも、まだ何が見える?」

「道を歩いている人や、走っていく小犬も見えるよ。」

そのお母さんは、次にその子を鏡の前に連れて行きました。

「鏡の中に、何が見える?」

「ぼくの顔が見えよ。」

「そうね。この世の中には、二種類の人がいるのよ。一方は窓ガラスから外の世界を見ているような人で、いつも他の人のことを考えて生きている人です。」

そしてもう一方は、鏡^{かがみ}を覗いているような人^{ひと}で、いつも自分^{じぶん}だけを見て生^みきている人^{ひと}です。他の人^{ほかひと}の
ことを見る余^{あま}裕^{ゆう}がなく、自己^{じこ}中心^{ちゅうしん}的^{てき}な考^{かん}え方^{ほう}しかできません。
あなた^{あなた}はどちらの人^{ひと}になりたいですか？」

2. 家族^{かぞく}を救^{すく}った子犬^{こいぬ}

ある農家^{のうか}で、小犬^{いぬ}を一匹^{ひき}、飼^かっていました。

その家族^{かぞく}はみんな、その子犬^{こいぬ}が大^{だい}好^{こう}きでした。

ある日^ひ、その家族^{かぞく}は全員^{がいしゆつ}で外出^{がいしゆつ}することになりました。

「ワンちゃん、家^{いえ}の留守番^{るすばん}をしかりしててね。帰^{かえ}ってきたら、一緒^{いっしょ}に遊^{あそ}んであげるから！」

その子どもは、子犬^{こいぬ}をなでながら言^いいました。

子犬^{こいぬ}はしっぽを振^ふって応^{こた}えました。そして、その子犬^{こいぬ}は一人^{ひとり}で家^{いえ}の留守番^{るすばん}をすることになりました。

そこへ、ヘビ^{へび}が一匹^{ひき}、家^{いえ}の中^{なか}に入^{はい}ってきました。

昼寝^{ひるね}をしていた子犬^{こいぬ}は、そのヘビ^{へび}を見^みて驚^{おどろ}きました。そのヘビ^{へび}は毒^{どく}のある蛇^{へび}だったのです。

そして、その家^{いえ}にある牛乳^{ぎゅうにゅう}の壺^{なか}の中^{なか}に入^{はい}り込み、そのま^ま出^でてきませんでした。

家族^{かぞく}が家^{いえ}に帰^{かえ}ってくると、子犬^{こいぬ}は牛乳^{ぎゅうにゅう}の壺^{なか}の前^{まえ}に座^{すわ}っていました。

のどが渴^かいた子どもたちがその牛乳^{ぎゅうにゅう}を飲^のもうとすると、子犬^{こいぬ}は大^{おお}きな声^{こえ}で吠^ほえ続けました。

「ワンちゃん、一体^{いっ}どうしたの？」

母^{はは}親^いはこう言^いい、子^こどもに牛乳^{ぎゅうにゅう}を注^{そそ}いであげようとしてしました。

その子^こが牛乳^{ぎゅうにゅう}を飲^のもうとした瞬間^{しゅんかん}、子犬^{こいぬ}が飛^とび跳^はねてぶつかり、牛乳^{ぎゅうにゅう}をこぼしてしまいました。

「ワンちゃん、なんてこ^ことするの？」

母^{はは}親^いが叱^{こいぬ}りましたが、子犬^{こいぬ}はまったく気^きにせず、こぼした牛乳^{ぎゅうにゅう}を全^{ぜん}部^ぶなめてしまいました。

しばらくすると、その子犬^{こいぬ}は倒^{たお}れて死^しんでしまいました。

後^{のち}から、牛乳^{ぎゅうにゅう}の壺^{なか}の中^{なか}にいる毒^{どく}ヘビ^{へび}を発^{はつ}見^{けん}した母^{はは}親^いと子^こどもはびっくりしました。

私^{わたし}たちを毒^{どく}ヘビ^{へび}の毒^{どく}から守^{まも}るために、その子犬^{こいぬ}が身^み代^{しろ}わりとな^なって死^しんだのでした。

そんなこと^{こと}も知^しらずに、子犬^{こいぬ}を叱^{こいぬ}ってしまったことを後^{のち}悔^いし、みんなでその子犬^{こいぬ}を抱^{いだ}きしめ、泣^なきました。

3. 仲^よの良^{ふたり}い二人^{きょうだい}の兄弟

昔^{むかし}、あるところ^{ところ}に、とて^{とて}も仲^{きょうだい}の良^{いい}い兄^{あに}弟^{つま}が住^いんでいました。

これ^{これ}まで一^{いち}度^どもけんかしたことはなく、い^いつも助^{たす}け合^あって暮^くらしていました。

この兄^{きょうだい}弟^{ちち}は、父^{とち}親^{はんぶん}からもら^わった土^{こむぎ}地^くを半^{はん}分^{ぶん}ずつに分^わけ、小^こ麦^{むぎ}を作^くって暮^くらしていました。

ある日^ひ、家^{いえ}に帰^{かえ}ってきた兄^{あに}が妻^{つま}に言^いいました。